

2011年12月9日(金)~12月11日(日)

申込締切/2011年11月10日(木)

場所/湘南国際村センター(神奈川県葉山町)

Date: 9-11 December 2011 Application Deadline: 10 November 2011
Venue: Shonan Village Center (Hayama-machi, Kanagawa)

基調講演

Keynote
Lecture

テーマ Theme

「東アジアにおける若者の意識変化と不変
——東アジアの変化と求められる対応」

“The Change and Stability of the Consciousness of the Youth in
East Asia + The Change in East Asia and Desirable handling”

王 敏氏

(法政大学 国際日本学研究所 教授)

Min Wang (Professor, Research Center for International
Japanese Studies, Hosei University)



プロフィール/1982年、国費留学生として宮城
教育大学に留学。2000年お茶の水女子大学人
文学博士号取得。文化外交を推進する総理
懇談会委員、国際文化交流推進会議有識者会
合委員ほか政府系有識者委員会委員等を歴任。
中国では日本学研究会副会長、日本文学研
究会理事等。比較文化学、アジア学、日本学、
宮沢賢治学を研究。90年に中国優秀翻訳賞、
92年に山崎賞、97年に岩手日報文学賞賢治賞
受賞。2009年に文化長官表彰。著書に「日本
と中国 相互誤解の構造」(中公新書)、「東アジ
アの日本観」(共著)(三和書籍)など多数。

テーマ Theme

「東日本大震災と NGO」

“The Great Eastern Japan Earthquake and NGO”

片山 信彦氏

(特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・
ジャパン 常務理事・事務局長)

Nobuhiko Katayama (National Director, World Vision Japan)



プロフィール/大学卒業後、三井住友海上火災
保険株式会社入社。1992年ワールド・ビジョン・
ジャパン入団。1999年英国マンチェスター大学
大学院 IDPMにて「社会開発」と「NGOマネー
ジメント」を学ぶ。2000年から事務局長、
2001年から常務理事を兼務。教育協力 NGO
ネットワーク (JNNE)代表、「エクセレント
NPO」をめざそう市民会議理事も務め、著書
には「連続講義 国際協力 NGO」(共著)(日本
評論社) などがある。

東 ア ジ ア 共 通 の 家

市民社会と連帯

The 9th Inter-college International Seminar
An East Asian Common House: Civic Society and partnership

セミナー
プログラム
Seminar
Program

12月9日(金)

- 16:00 受付開始
- 17:30 共通セッション I
- 18:00 夕食
- 19:00 開会式
- 19:15 基調講演 1 (共通セッション II)
- 20:45 分科会説明
- 21:00 分科会演習 I (22:00 まで)

12月10日(土)

- 9:00 分科会演習 II
- 12:00 昼食
- 13:00 基調講演 2 (共通セッション III)
- 14:30 休憩・自由行動 (各自)※
- 16:00 分科会演習 III
- 18:00 夕食
- 19:00 分科会演習 IV (22:00 まで)
- ※自由参加セッションあり

12月11日(日)

- 9:00 分科会演習 V
- 12:00 昼食
- 13:00 分科会発表 (共通セッション IV)
- 15:30 閉会式

インカレ国際セミナー組織委員会委員長 Chair, Inter-college International Seminar Organizing Committee

黒川 修司 (東京女子大学教授) Shuji Kurokawa (Professor, Tokyo Woman's Christian University)

この湘南国際村のインカレ国際セミナーは、多くの大学からの参加者を得て、同じ場所とテーマで議論すること9回目になります。単位にならない、お金がかかる、東京からは遠い場所で、睡眠時間を削ってまで議論を交わして、分科会の共通意見を発表しています。なぜ、学生諸君はこんな苦勞をするのでしょうか？それは学問というものは、独善的であってはならず、しかも社会科学としては現実を見つめながらも、理想を忘れずに議論をすることが不可欠だからです。自分の実力を客観的に見直す良い機会であり、他大学の教員からの指導を受けるまたとない機会でもあるのです。

3・11の東日本大震災は、地震、津波、原発事故(複数の原子炉がメルトダウンした大災害)と放射能の被害、風評の被害に加えて政府の対応の遅さと政治不信を招いています。「選択と集中」の経済・社会政策は確かに効率的であったが、一度トラブルが発生すると、「無駄」(経営学でいうスラッグ)がないために、余裕がなく生産が激減しました。日本は小松左京のベストセラーとは異なる形で「沈没」してしまうのだろうか？エネルギーの配分はこのままで済むのだろうか、原発に頼らずに再生可能なクリーンなエネルギーに政策を転換すべきではないのか？この事態を受けて、日本と東アジア諸国との関係は変わるのでしょうか？様々な疑問が沸きあがってきます。こんな時にこそ、将来を担う若い諸君に構想力を求めたいと思い、今年はサブ・タイトルを「市民社会と連帯」として、日本と東アジアの国際協力と連帯を重視した基調講演者をお招きしセッション分けをしました。

参加する学生諸君に求めることは、受身ではなく発信をすることです。ここは教員から教えてもらう場ではなく、事前にテーマとセッションで指定された参考書を読んで、自分なりの意見を持って、富士山と相模湾を望む素晴らしい環境の湘南国際村に来ていただきたいのです。若さと体力とで活発な議論を交わして、一定の提言を纏めることが望まれています。

今回のインカレ国際セミナー「東アジア共通の家—市民社会と連帯」は、2泊3日の短い期間に、「東アジアの経済協力」「アジアの平和と安全」「アジアの市民社会とNGO」「人間の安全保障—環境破壊と自然災害」「文化とネットパワー」の5つのセッションに分かれて、多面的に東アジア共同体の議論を行い、異なる国家、大学の枠を超えた意見交換をしたい。

3/11 shocked Japan and the world. The earthquake, Tsunami, and radioactive fallout damaged the Japanese and her economy beyond imagination. This hazard made us to judge the security, energy, Nuclear Plant, damage control, and how to live. Deeply we have to reconsider the relationship between Japan and the Asia and that of the world.

This year we have two outstanding guest speakers on Cultural Studies and NGO activities which will add your understanding of the East Asian Common House. As a chairperson, I asked each guest to allow questions from the students, I welcome very active question for twenty minutes.

We would like to invite students to discuss the road map to the East Asian Common House from the viewpoint of "Civic Society and partnership" at the beautiful and quiet Shonan Kokusai Mura. We made five groups to discuss and to make a plan; Group A: Economics and Financial Issues, Group B: International Security, Group C: Civic Societies and NGO, Group D: Human Security, Group E: Culture and Network.

Three days are not enough to discuss and present your opinion on the topic, but we are sure this will be a good start for your serious study.

組織委員 Organizing Committee Members

大芝 亮	一橋大学教授	Ryo Oshiba	Professor, Hitotsubashi University
押村 高	青山学院大学教授	Takashi Oshimura	Professor, Aoyama Gakuin University
黒川 修司	東京女子大学教授 (委員長)	Shuji Kurokawa	Professor, Tokyo Woman's Christian University
小久保 康之	東洋英和女学院大学教授	Yasuyuki Kokubo	Professor, Toyo Eiwa University
白鳥 浩	法政大学教授	Hiroshi Shiratori	Professor, Hosei University
随 清遠	横浜国立大学教授	Qing-yuan Sui	Professor, Yokohama City University
滝田 賢治	中央大学教授	Kenji Takita	Professor, Chuo University
中村 虎彰	ソルブリッジ国際大学 又松中学校 専任講師	Toraaki Nakamura	Full-time Lecturer, SolBridge International School of Business, Woosong University
野口 和彦	東海大学教授	Kazuhiko Noguchi	Professor, Tokai University
渡邊 啓貴	東京外国語大学教授	Hiroataka Watanabe	Professor, Tokyo University of Foreign Studies
武藤 誠	(財)かながわ国際交流財団 常務理事	Makoto Mutoh	Managing Director, Kanagawa International Foundation

分科会 A 東アジアの経済協力

講師：随 清遠、中村 虎彰

アジア太平洋経済協力会議 (APEC)、東南アジア諸国連合 (ASEAN) ないし ASEAN+n、東アジア共同体 (EAC)、個別国同士の自由貿易協定 (FTA) など東アジア地域における経済協力の機構や枠組みは多岐にわたって存在する。東アジアの国々には、国土、人口、経済規模、政治、文化などの面において大きな格差が存在している。多種多様の機構や枠組みの存在は、この地域の多様性を反映しているといえる。

90年代のアジア通貨危機以降、ASEANを中心とした協力枠組み作りがこれまでになかった勢いで進められてきた。平和的共存、安定した発展のためにそれぞれ固有の枠を超えた協力が不可欠という共通認識があったからである。目下、この地域にとって経済協力に関する重要な問題は、何といたっても環太平洋経済連携協定

(TPP) の枠組み作りである。アジア経済協力会議は、年内の決着を目指している。本分科会では、この TPP 問題に焦点を当てて、枠組み形成の意義また各国が抱えている問題点をさまざまな角度から論議したい。

<参考文献>

- ①石川幸一「環太平洋戦略的経済連携協定 (TPP) の概要と意義」、『季刊国際貿易と投資』、2010年。http://www.iti.or.jp/kikan81/81ishikawa.pdf
- ②木村福成「新国際ルール形成の場に」、2010/12/1、日本経済新聞、経済教室。
- ③小寺彰「早期交渉で現実的な解を」、2010/12/2、日本経済新聞、経済教室。
- ④神門善久「農業の振興、耕作技術軸に」、2010/12/3、日本経済新聞、経済教室。

分科会 B アジアの平和と安全

講師：黒川 修司、野口 和彦

この分科会では、東アジアの安全保障に関するさまざまな問題を扱います。現在、東アジアには共同体構築に向けた動きがある一方で、対立や紛争の火種も根強く残っています。そこで本分科会では、対立と協調が共存する東アジアの安全保障をどのように考えたらよいか、皆さんと意見交換をしたいと思います。東アジアの地域主義は、どの程度進んでいるのでしょうか？その土台となるような仕組みや制度としては、どのようなものがあるのでしょうか？東アジアの安定と平和を維持するには、どうしたらよいか？東アジア安全保障における国家および市民の役割とは、何でしょうか？参加者たちが知識や知恵を絞りながら、こうした疑問に対する答えを探して行きましょう。

<参考文献>

- ①寺田貴「アジア地域主義論」及び植木 (川勝) 千可子「アジアの安全保障」寺田貴編著「アジア学のすすめ」第1巻、弘文堂、2010年、124-169ページ。
- ②勝間田弘「アジアの協調的安全保障」アジア政経学会監修『現代アジア研究③政策』慶応義塾大学出版会、2008年、第4章。
- ③防衛省防衛研究所編「東アジア戦略概観」ぎょうせい、2011年。(ネットで閲覧可)

<宿題>

「アジアの未来 (鳩山スピーチ)」と
http://www.kantei.go.jp/jp/hatoyama/statement/201005/20speech.html
「わが国の安全保障」http://www.mod.go.jp/j/approach/agenda/seisaku/kihon01.html を事前に読んで、プリントアウトしたものを持参して下さい。両方とも、ネット上で読める短い平易な文章です。

分科会 C アジアの市民社会とNGO

講師：大芝 亮、押村 高

「かつて国際関係とは国家と国家の関係であり、大統領や首相、そして外務省などが各国の外交政策を形成・実施していた。しかし、今日では、NGOをはじめ、市民社会のさまざまなアクターが広い意味での『外交』の担い手となり、国際社会を形成している」といわれる。果たしてこのような見方は東アジアにおいて適切なのだろうか。仮に、上のような見方が妥当であるとした場合、市民社会のどのアクターがいかなる問題領域でどのような活動を行い、国際関係にいかなる影響を及ぼしているのだろうか。

この分科会では、そもそも市民社会とはなにか、NGOと市民社会はどのような

関係にあるのか、中国・韓国・日本、そしてASEAN諸国に果たして市民社会は存在しているのかという問題から出発し、そのうえで、上記の問いについて議論していきたい。

<参考文献>

- ①植村邦彦「市民社会とは何か—基本概念の系譜」平凡社新書、2010年。
- ②小倉充夫・竹内隆夫・田巻松雄・加納弘勝・北原淳編著『アジア社会と市民社会の形成—その課題と展望』(アジア社会研究会年報)文化書房博文社、2009年。
- ③大橋正明・高橋華生子・金敬黙・長有紀枝・遠藤真著、美根慶樹編『グローバル化・変革主体・NGO—世界におけるNGOの行動と理論』新評論、2011年。

分科会 D 人間の安全保障—環境破壊と自然災害

講師：白鳥 浩、滝田 賢治

「人間の安全保障」概念がカバーする領域は広範であるが、我々の人間生活を物理的に根底から突き崩してしまう環境破壊と自然災害から人々を守ることは「人間の安全保障」の最も基本的な部分である。前者は人為的なものである。後者は人知の及ばないものではあるが、事前の備えや、発生後のマルチラテラルな協力により被害を最小化しうるものである。

東アジアでは、安全保障問題をめぐって緊張が続いているが、人間社会の営みを根底から突き崩す環境破壊や自然災害をめぐる国際協力の態勢・体制を促進・充実させることに反対する国家は皆無である。これら2つの機能的分野をめぐる東アジアの国際協力を進めることが、「東アジア共通の家」作りを促進することは明らかである。

このような問題意識から、本分科会では、①気候変動により引き起こされてきた

東アジア地域の実例を確認した上で、気候変動に対する東アジア地域の協力態勢・体制の実態を検討する。次に②インド洋大津波 (2004年)、中国四川地震 (2008年)、東日本大震災の際の国際協力の態勢や問題点を議論する。本分科会への参加者が決定した段階で、「アジア防災センター」のサイトなど、より詳しい参考文献と、より具体的な予備的作業を指示する。

<参考文献>

- ①柳哲雄・植田和弘「東アジアの越境環境問題—環境共同体の形成をめざして」九州大学出版会、2010年。
- ②今井英二郎「国際平和協力活動における民軍協力—大規模自然災害復興支援、平和構築支援を中心に」『防衛研究所紀要』第9巻第3号、2007年。(ネットで閲覧可)
- ③報告書「災害対策をめぐる国際協力の仕組みづくり」(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構、2010年。(ネットで閲覧可)

分科会 E 文化とネットパワー

講師：小久保 康之、渡邊 啓貴

「パブリックディプロマシー」という言葉が、ソフトパワー論とともに外交論議に重要な意味を持ち始めていることはよく知られている。このセクションでは、こうした言葉にこめられた歴史的意義や今日的役割について議論したい。日本外交においてハードパワーからソフトパワーへの重要度の変化は、国際社会における日本という国の位置づけが変化していることを意味する。またそれはインターネットなどを通して情報伝達手段が迅速かつ広範囲にわたるようになった現代の象徴的現象の結果でもある。日本外交は労働集約的な産業国から重工業・ハイテク産業国というプロセスを経て文化大国としての外交を模索するようになった。それは日本がより付加価値の高い国になったことでもある。日本文化の特徴のおおきなひとつは、伝統文化からポップ・カルチャーを中心とする「クールジャパン」にいたるまで多種多様で、間口の広いことである。そうした点を踏まえながら、他の文化大国とよばれる国々との比較を通して日本の文化外交の現状や今後についてみんなで考えた

い。それぞれ日本と自分の関心のある国々の広報文化外交について、ある程度勉強して参加することを期待する。

<参考文献>

- ①松村正義『国際交流史』地人館、2002年。
- ②「外交」編集委員会編『外交』Vol.3、外務省、2010年。(ネットで閲覧可)
- ③ジョセフ・S・ナイ『ソフト・パワー—21世紀国際政治を制する見えざる力』山岡洋一訳、日本経済新聞社、2004年。

<宿題>

各自が考えるソフトパワーについて、パブリックディプロマシーやプロパガンダなどの概念との整理を試みること。その際自分の関心ある国や地域での例についてレジュメを作成すること。

参加申込方法 Application Information

参加資格：東アジアの政治や文化、開発などに興味を持つ大学生、大学院生および若手社会人。専門分野は問いません。使用言語は日本語または英語です。

期間：2011年12月9日(金)～11日(日)

12月9日の午後4時から開会式会場前にて受付を行います。大学等の理由により遅れる場合には、遅くとも開会式の15分前までに受付を完了してください。

場所：湘南国際村センター

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39

<http://www.shonan-village.co.jp/>

定員：100名

費用：23,000円

(留学生10,000円 ※但し、選考があります。)

宿泊：同性での複数人部屋 (2～6名)

応募方法：所定の申込用紙に必要事項を書いて、FAX、郵送もしくはE-mailにて11月10日(木)必着で、お申し込みください。申込用紙は、湘南国際村学術研究センターのホームページから、ダウンロードできます。(http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?p=1357)

合格通知：応募者はセミナー組織委員によって審査され、合格者には11月22日(火)までに「参加証」と「お振込み先銀行口座」をE-mailにてお送りいたします。E-mailを受け取られましたら11月29日(火)までに参加費をお支払いください。

お問合せ／お申込み：

(財)かながわ国際交流財団

湘南国際村学術研究センター (担当：佐々木、タバ)

〒240-0198 神奈川県三浦郡葉山町上山口1560-39

湘南国際村センター内

TEL：046-855-1821 (9:00～17:45 土日祝日をのぞく)

FAX：046-858-1210 E-mail：incolle@kif.ac

URL：http://www.k-i-a.or.jp/shonan/

Qualification： Undergraduate/graduate university students of any specialized field, or young workers interested in East Asian politics, culture and development. This seminar will be conducted in Japanese or English.

Date： December 9 Fri. -11 Sun., 2011

Registration begins at 16:00 on December 9. If you will be late for it due to university etc., please complete registration at least 15 minutes before the opening ceremony.

Venue： Shonan Village Center 1560-39 Kamiyamaguchi

Hayama, Kanagawa 240-0198

<http://www.shonan-village.co.jp/svc/>

Number to be admitted： 100

Fee： 23,000 yen (10,000 yen for foreign students. Note that there will be a selection process.)

Accommodation： Room sharing with 2 to 6 people of the same sex.

How to apply： Please fill in the application form and send it to KIF by post, FAX or E-mail, no later than November 10. The application form can be downloaded on Shonan village Academic Research Center website.(http://www.k-i-a.or.jp/shonan/?p=1357)

Notification of admittance： Applications will be reviewed by the Program Committee. Selected participants will be informed by E-mail by November 22. Please make payment of your participation fee by bank transfer by November 29.

Secretariat：

Kanagawa International Foundation (KIF)

Shonan Village Academic Research Center

(Program Officers: Akie Sasaki or Jigyan Thapa)

1560-39 Kamiyamaguchi Hayama, Kanagawa 240-0198

TEL：046-855-1821 FAX：046-858-1210

E-mail：incolle@kif.ac

Office hours: Monday - Friday 9:00-17:45 (except national holidays)

(Should you have any questions, please contact above.)

会場のご案内 Access

バスをご利用の場合

JR逗子駅前1番乗り場より16系統、26系統「湘南国際村センター」行きバスに乗車、終点の「湘南国際村センター」下車。(所要時間約30分、料金340円)
※このバスは2～3分後に京急新逗子駅前1番乗り場に停車します。

京急汐入駅前2番乗り場より16系統「湘南国際村」行きバスに乗車、「湘南国際村センター」下車。(所要時間約30分、料金370円)

タクシーをご利用の場合

JR逗子駅前タクシー乗り場より「湘南国際村センター」まで約15分。
料金約2800円。

<http://www.shonan-village.co.jp/access.html>

